

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2024

秋

No.52

JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

学園だより

特集 上越教育大学と国際交流

「外国につながる子どもたち」への修学支援事業



教員就職率 全国トップクラス!

学校教育学部

84.8%

教員就職 112名
全国第2位

教職大学院

89.4%

教員就職 59名
(現職教員を除く)

※令和5年3月卒業・修了者の就職状況



さまざまな出会いと学び

楽しい大学生活

上越教育大学に入学して良かったことは課外活動や講義でのグループ活動、実習で様々な人と関わり、交友関係を広げることができることです。また、講義や実習での分からないところのアドバイスを、先輩から教えてもらったり、アルバイト等を紹介してもらったり、学校内外での交流があり、学年問わず、仲良くすることができます。入学当初は大学生活を楽しめるかとても不安でしたが、現在では友達も多くでき、先輩とも仲良くできて、さらに興味のあることを見つけることができるなど学習面での充実感を得られ、大変満足しています。

上教大で感じる良さ

私は幼年教育コースに所属しています。主に就学前の子どもについて学んでいます。学部3年生では小学校実習がありますが、それに加えて幼年教育コースは障害者施設実習や保育実習、幼稚園実習があり、実習でしか体験できないことを経験したり、講義で学んだことを実践できたりする機会が多いです。現時点で、障害者施設実習と保育実習を経験しましたが、実習記録を書くことの大変さを感じながらも、幼児や障害のある方たちとコミュニケーションを取る楽しさを実感したり、保育士だけではなく、介護職や特別支援学校の教員等にも興味を持ったりと興味のある職を増やしたりすることができました。

将来の夢

私の将来の夢は保育士です。子ども、保護者、一緒に働いている保育士等私の周りの人から頼られ、信頼されるような保育士になりたいです。上教大は小学校の免許を取ることが主ですが、そこで就学前の子どもにも対応できること、保育士になる上で役立つことを見つけながら、幼年教育コースで専門分野の勉強にも励んでいきたいと思っています。



学部3年
幼年教育コース
藤原 実穂 さん



研究室

ようこそ

日本語を研究するとは

「日本語を研究している」と言うと、「乱れた日本語をきびしくチェックしている人だとおもわれたり、どういう言葉つかいが(正しい)のかをよく知っている人だとおもわれたりすることがありますが、日本語の研究とは、そういうことではありません。

日本語を研究するとは、日本語という言葉が現にどういうしくみになっているかを、客観的にそして論理的に説明することです。たとえば「ら抜きことば」といわれる現象があります。これを「乱れ」とか「正しくない」と決めつけてしまったらそこで思考停止です。それに対し、いったい何が起きているのかということ、たとえば日本語の可能表現の体系やその歴史的变化という観点から分析し、さらには、どのような場面でのような人が、そしてどのような動詞で「ら抜き」の形をつかうのか、あるいは「ら抜き」でない形をつかうのか、という言語使用の実態を明らかにするのが、日本語を研究することです。

また、「いま「歴史的变化」ということを言いましたが、ことばは変化します。たとえば古典の時間に習う「あはれ」や「をかし」は、いつ

どのようにして今の意味になったのでしょうか。あるいは、なぜ「はづかし」は「立派だ」とあり「やがて」は「すぐに」なのでしょう。日本語の研究の中でも、そうした語の意味・用法の変化という現象に、私個人としては特に興味をもっとりこんでいます。

国語の授業と日本語の研究

小中学校の国語教科書を見ると、日本語研究の新しい成果をとりいれながら、ことばのおもしろさを感じてもらおうためのあの手の工夫がなされています。しかし肝心の先生方がそのことに気づけないとしたら残念なことですし、気づいたとしてもことばのしくみにとってどういふ点が大事なかがわかっていなければそうした教材をどのように扱っていいかわからないということもあるでしょう。先生になるみなさんに対しては、ことばのしくみを考えるための基礎知識を伝えるとともに、そうした知識や考え方を教科書に出てくる種々の言語現象との連絡をつける手助けをする必要性を、私は感じています。そのようなわけで、当「研究室」は、ことばに注目して国語の授業をおこないたいと考えているすべてのみなさんを歓迎します。



ことばのおもしろさを
伝えられる国語の先生に



鳴海伸一(なるみしんいち) 人文・社会教育学系 准教授
青森県出身。東北大学大学院文学研究科博士課程後期3年の課程修了。博士(文学)。2023年10月着任。専門は国語学(日本語学)。「国語学講義」「国語学演習」などの授業を担当。趣味は(主にチェイソンの)喫茶店巡り。そこに集まるさまざまな人々の会話や行動を写して現代の庶民生活の諸相を浮き彫りにする「浮世茶店(さてん/カフェ)」の執筆を夢想している。

学習支援は、1〜3学期まで通年でを行います。夏休み、冬休みには1〜4日間「宿題教室」を実施します。

実施方法は、参加する児童生徒の希望により、本学の教室での「対面」、または「オンライン」のいずれかとなります。いずれにおいても個に応じた、個別またはグループでの学習となっています。

指導教科は、国語、算数・数学、理科、社会など様々な教科を指導しています。

日本人学生と留学生が協力するなどして、児童生徒の状況に合わせて、日本語で行ったり、彼らの家庭言語で補足したりして、理解が深まるよう支援を行っています。

学習支援を行う期間・実施方法と内容

参加する児童生徒

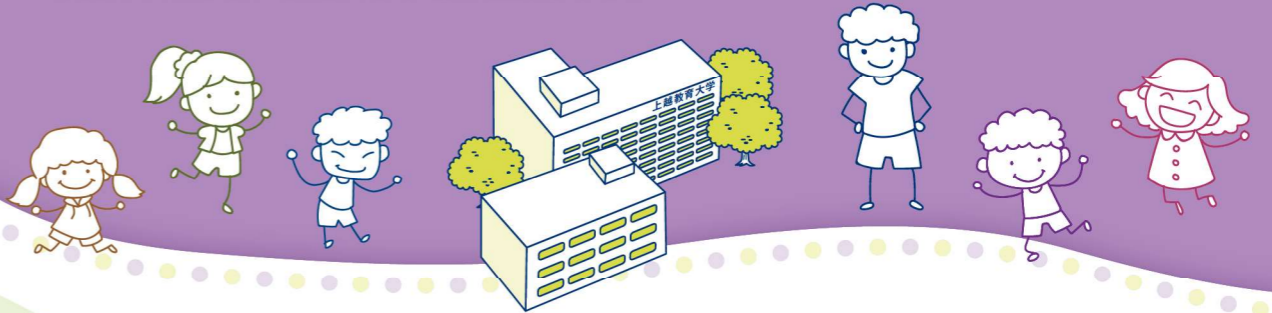
令和5年度に参加した児童生徒は20名以上。児童生徒たちのルーツは、中国、フィリピンが多く、様々なバックグラウンドを持っています。



「外国につながる子どもたち」への修学支援事業

近年、日本に在住する外国人が増加する中、学習支援を必要とする多様な言語や文化を持つ子どもも増加しています。上越教育大学では、「外国につながる子どもたち」への修学支援事業を行っており、多くの本学学生、留学生が学習支援で活躍しています。

今回は、本事業の活動の様子をご紹介します。



算数

対面での学習支援

学生は、教材を自作したり、児童生徒の興味を引く質問を行ったり、個々に合わせて工夫を凝らした支援を行っています。

国語

Zoomでのオンライン学習支援

日本語での学習の理解を深めるために、留学生が子どもの得意な言語で補足することも。画面越しでもきちんと理解できているか丁寧に確認します。

言語支援の様子 (日本語・中国語)

休憩時間

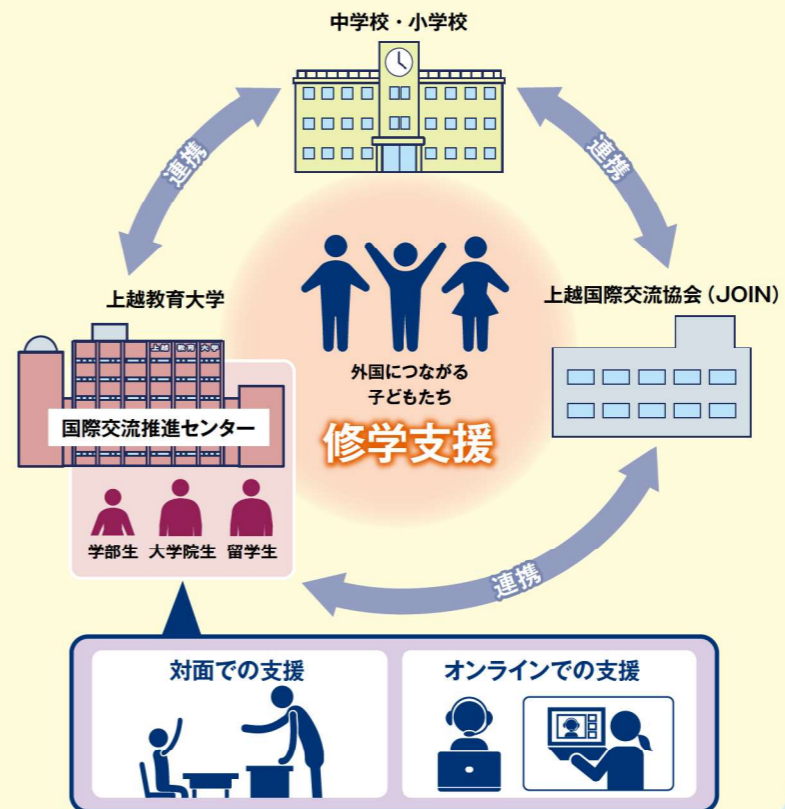
勉強の合間の休憩時間には、ボール遊びや鬼ごっこをします。子どもたちも楽しみにしています！



次のページでは、支援にかかわる学生の視点から掘り下げます！



修学支援事業のイメージ



「子どもLAMP」では、上越地域周辺在住の学習支援を必要とする「外国につながる子どもたち」を対象に、日本語と家庭言語（英語・中国語等）での学習支援を行っています。

本学「国際交流推進センター」が窓口

となり、参加を希望する本学学生（学部生・大学院生・留学生）が主体となり、子どもたちの教科学習等をサポートし、教科内容の理解促進を手助けしていきます。

「外国につながる子どもたち」への修学支援事業
通称・「子どもLAMP」
※Language Acquisition and Maintenance Project

「子どもLAMP」に参加している学生の声

令和6年度は、学部生3名、大学院生9名、留学生6名の計18名の学生が参加し、活躍しています。活躍する学生に、活動に参加した感想を聞いてみました。



大学院2年 浅井 大和 さん

担当教科：国語、数学、社会（地歴）

私は、学校を含めた日常生活と日本語をつなげる架け橋となるような場を目指してLAMPの支援をおこなっています。グローバル化の進展により、日本の多くの自治体で外国につながる子どもの人数は現在進行形で増加しています。そのような状況において、教育に携わることを志す学生が、日本語の支援が経験できる場は貴重であると感じています。



大学院2年 船谷 彩原 さん

担当教科：国語（漢字）、社会、理科

学級は多様性に満ち溢れています。私が教師になったときに、そうした多様性を持った子どもたちを少しでも多く理解し、子どもたち一人ひとりが学べる環境づくりができる教師でありたいと思います。LAMPへの参加を決めました。支援の中で、児童のわかることが少しずつ増えてきたり、積極的にコミュニケーションを取ってくれるようになったりと日々成長する姿を見られることがとても嬉しく、やりがいでもあります。



大学院2年 加藤 徳子 さん

担当教科：国語、社会

外国につながる子どもたちの教育に関心をもっていたことが、LAMPに参加するきっかけでした。活動の中で、私は子どもたちの「やりたい！」を引き出せるような教材を作ることができています。一緒に学習していくからこそ気付くことのできる子どもたちの変化が嬉しく、「もっと頑張ろう！」と力をもらえます！



支援を受けた子どもたちの声

家でひとりで勉強するより集中できる！

先生が超やさしい！わからないことをききやすい！

先生の授業は毎回楽しい！



LAMPへの参加で、多様性を認めながら子どもの可能性を伸ばせる教員への第一歩を踏み出したいと思いました。昨年は口数の少なかったフリップルーツの小学生でしたが、今では自分の好きなことや挑戦したいことをたくさん話してくれるようになりました。子どもの成長や頑張りを感じられる喜びは計り知れません。

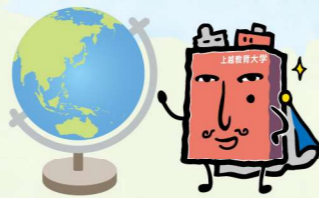


特別講聴学生 エヴギン ヒラル さん (トルコ出身)

担当教科：国語（漢字）、算数

活動に参加した理由は、教育経験を積めるため。そして、日本語教育学科で学ぶ外国人の私、他の外国人の日本語学習や、日本で生活する中での問題を解決したいからです。日本語は難しい言語と言われていますが、実は楽しい言語です。生徒が漢字の読み書きが分からないときは、一緒に楽しく練習し、生徒たちに日本語の楽しさを伝えるように頑張っています。生徒たちが楽しみながら宿題をする姿を見るのはとても嬉しく、今後もより多くの生徒のお手伝いができるように頑張っています！

上越教育大学では、他にも国際交流にかかわる様々な事業を行っています。



海外教育（特別）（実践）研究D

2023年3月に台湾国立嘉義大学を訪問し学生間の交流や、国立嘉義大学附属小学校での授業実践、文化研修等を行いました。



留学生行事「留学生が語る／留学生と語る会」

この行事は、「外国人留学生に対する理解や関心を高め、異文化理解マインドを育てるため、留学生が自国の紹介などを行い、留学生と語り合う機会を提供する」ことを目的としています。テーマに沿って、留学生・日本人学生・教員・地域住民が語り合います。

上教大生の皆さん 国際交流に関する活動に参加しませんか？



国際交流推進センター長 押木 秀樹 教授

センター長からのメッセージ

国際交流推進センターは、学生や教員の皆さんが海外で研修や留学をする際の支援、海外の研究者の招聘のお手伝い、本学で学ぶ留学生のサポートなどを行っています。一方、地域における国際交流と、その学びとしての異文化理解も重要であると考えています。今回の特集である「外国につながる子どもたちへの修学支援事業」もその重要な活動の一つです。学生の皆さんには、様々な活動を通して、国際交流や異文化理解教育の重要性を学んでほしいと考えています。

わたしの「ご当地ことば」

上越教育大学の学生のうち、7割以上は新潟県外出身者で、全国から集まっています。「自分のことばが実は方言だった!」「友人の使うこのことば、気になる!」今回は、様々な県出身の上教大生に「ご当地ことば」を聞いてみました。

群馬 ~さ。(語尾)



佐々木 友梨
学部2年

方言の意味は特になく、使い方としては「言ったんさ、行ってきたんさ、見たんさ、買ったんさ、聞いたんさ、買ったんさ」など話す時、とにかく語尾に「さ」をつけます(笑)もし、仲のいいお知り合いに群馬県出身の人がいたら、語尾に「さ」が付いてないか気にしてみてください。もしかしたらめっちゃめっちゃ「さ」が付いているかもしれません!

栃木 あるってく

歩いてくことを「あるってく」って言う。
あるってコンビニ行こーみたいな感じで使う。

丸山 怜香
学部1年



あるってく

しゅっち。(語尾)

みんなが「私たち」とかって言う時に、静岡の人は「しゅっち」って言う。だから、みんなにたまごっちみたいだねー! って言われる!

土屋 愛梨
学部2年



静岡

はよしねや

福井

「はやくしなよー」的な意味で「はよしねや」って言う。他の人的には違う意味に捉えられちゃう。

山 悠
学部2年



富山

軽めな励ましの時に「大丈夫やちや!」といって、語尾に使います。基本的にはあまり出ないのですが、富山に帰った時におばあちゃん話す時に出たりします!

大田 花織
大学院2年



(語尾)

やちや。

しゅっこい

新潟



「しゅっこい」は主に「冷たい」という意味です。冬に雪が降った時などにもよく使われますが、主には、春や夏に水が思ったよりも冷たい!! って時などによく使われます!

野川 太陽
学部2年

~するしない?

長野

「~しない?」っていう意味で、「~するしない?」っていう。使い方は「これからラーメン行くしない?」。初見の人だと、どっちゃねんってなったり、は? って顔をされたりするから要注意!!!!!!

内山 大地
学部2年



石川県の方言! 「だるいなー」とか「体調悪いなー」って意味である! 他県の人には最初全然伝わらなかった!

たいそい

石川



泉 愛生
学部2年

編集後記

今回さまざまなご当地ことばを調べてみて、聴いたことがないものがたくさん出てきて驚きました。上教大はいろんな地域の人学んでいることを実感しました。

庄田 風花 石川
学部2年

山岸 しず 石川
学部2年

他にもまだある! / あなたの「ご当地ことば」

しよわしない 富山

そろっと 新潟

~だら (語尾) 静岡

~だんさ (語尾) 群馬

~げん (語尾) 石川

男子バレーボール部

日々の活動

男子バレーボール部は週3回の練習を行っています。平日は2時間半、休日は3時間の練習を行っており、4月に上越教育大学で行われる春の信越大会や、秋の北信越大会、上越市で開催される大会に向けて日々励んでいます。最近では、中学生やクラブチームなどの練習試合を通じた交流もあり、楽しくバレーボールを行っています！

学年の垣根を越えて

バレーボール部では、練習の最後に学年関係なくチーム分けをし、試合を行っています。部活内でも試合を行える人数があり、毎回白熱した試合を楽しんでいます。また、練習終わりに少人数ごとに分かれてご飯に行くことも多く、他愛のない話だけでなく、学校での授業やテストの話、進路の話先輩に聞くこともできます。そして、部員全員で行く旅行などもあります。昨年では、群馬県にラフティングを体験しに行き、夜にはパーベキューを行いました。そ



の年ごとに、代持ちの学年が行く場所を決めているため、毎年行く場所が違うため、色々楽しめます。学年の垣根を越えた、楽しい部活動を目指しています！

今後の目標

僕たちは、毎年10月末にある北信越大会で3年生が引退するため、最後の大会に向けて、日々練習していきます！経験者の方はもちろん、バレーボールに興味がある方なら大歓迎です。僕たちとチームスポーツであるバレーボールを通して、協力して楽しみたい人を待っています。難しいスポーツではありますが、難しいところが面白いスポーツだと思います。一緒にバレーボールを楽しみましょう！



DATA

令和6年7月現在

部員数/プレイヤー17人
マネージャー5人
計22人

活動日/
毎週月、水、日曜日の練習、
土曜日の自主練習

活動場所/体育館

活動実績/
冬上越3位
秋季北信越大会出場
春季信越大会出場・運営

【取材協力者】

学部3年
先端教科・領域学習コース
岩下 佳史

ワンダーフォーゲル部

Wandervogel

海×山という最高のロケーションを満喫する準備はできていますか？この部活はこの上越の自然を思い切り楽しむために創立しました。ワンダーフォーゲルとはドイツ語で渡り鳥という意味です。あちこち行きたいところへ行く僕たちにはピッタリの名前であると自負しています。活動は主に休日で、年間5回くらい“渡り鳥”になっています。みんなで予定を合わせて、登山したり、紅葉を見に行ったりして、美しい景色を堪能しています。活動が年間を通して少なく、部費もないため、学業やアルバイトへの影響がほとんどありません。忙しい生活の中で忘れがちな心のゆとりを思い出せるオアシス的な部活になっています。

ワンダーフォーゲルという言葉にはなじみがない方が多く、読んでくださっている方もこれが初めての出会いだったかもしれません。僕は多くの人に実際に活動しながら、この言葉の意味を体感していただきたいと思っています。ワンダーフォーゲルの意味について聞かれた際に、一緒にこう答えることがで

きる日が来ることを楽しみにしています。「心のオアシス」と。

自然浴

大自然という環境下では、みなが自分の素直な気持ちを吐き出せ、初めて会う人とも仲良くなることができる魔法の場所です。よく日本においてはお風呂と一緒に入るという行為を「裸の付き合い」といい、心に衣着せず対話することで、親密な関係を築くことができるといわれています。僕にとって自然を共に感じながら活動するという行為は歩く大衆浴場のような役割を担っていると思います。七福の湯もいいですが、一緒に山という温泉にも行ってみませんか？



DATA

令和6年7月現在

部員数/27人
活動日/休日
活動場所/自然
活動実績/米山登山 妙高山登山
【取材協力者】
学部3年
教科内容構成コース(社会)
尾形 益美



附属学校だより

昨年、「生みだす子どもが育つ学校」を研究主題に掲げた第十二期教育課程開発研究を立ち上げました。今年はその二年次にあたり、「実感」がひろがる子どもの姿を様々な教育活動から明らかにしていきたいながら、子どもが人間としてよりよく生きることを支える学校づくりに取り組んでいます。

本稿で紹介する「創造活動」は、多様な価値を含む「人・もの・こと」とかわることを通して、はたらかかけ、はたらかかけられ続ける中で感じ、考えることを基に「人・もの・こと」の本質をつくり出す活動です。日々の創造活動では、生き生きとした子どもの姿が見られています。



金谷の自然や生き物、里道とかかわることを通して、森の中で感じる心地よさや、自然環境を整備する喜びや苦勞を基に、金谷の魅力や課題をとらえながら、未知のことに取り組む楽しさや喜びを味わいます。



板倉区筒方地区のくらしや文化にかかわることを通して、くらしから感じる恵みや厳しさ、住まう人々の温かさに基づいて、中山間地域に対する思いやそこに住まう人々のかかわりをつくり変えながら、豊かにくらすことの意味や価値を考えていきます。



上越地域の風土とかかわることを通して、気候、地質、地形、景観と人間、もの、こととの関係の魅力やよさ、厳しさや難しさに基づいて、風土とともに在ることの意味や価値を追い求めながら、自身の生き方における風土の意味をつくり出します。

上越教育大学

附属小学校

生みだす子どもが育つ学校



2頭のミニチュアホースとの生活をつくることを通して、ミニチュアホースと共に過ごすことで、感じる一体感や、躍動感、緊迫感などに基づいて、ミニチュアホースとの関係性や、それに応じた場をつくり変えながら、自分の生活をよりよくします。



原っぱに家を建て、そこでの生活をつくることを通して、つくりたいものを形にする達成感や自分の居場所をつくる楽しさに基づいて、仲間との生活をつくり変えながら、仲間とのつながりをひろげていきます。



青田川や青田南葉山とかかわることを通して、自然の中で活動する楽しさや難しさ、そこで活動する人の思いに基づいて、自然の中で活動することの魅力をつくり変えながら、地域とかかわりをひろげます。

今年度の研究会は、11月22日(金)です。音楽集会、活動公開、協議会、パネルディスカッションを予定しています。



STEAM教育のカギは「技術・家庭科」にある!

光陰矢の如し。大学院での2年間はあっという間でした。

私は公立中学校で20年間勤務してきましたが、令和3年度から新潟県教育委員会の派遣教員として、ここ、上越教育大学大学院で学ぶことを選びました。中学校技術・家庭科の教員は、教科指導について職場内で相談できる人がいない環境で働きます。音楽や美術を専科としていらっしゃる方には共感していただけたと思います。教科指導について相談できる人が近くにいないことが、どれだけ心細く不安なことか……。独学で、または自分から様々な研修会に足を運ぶなどしながら手探りで20年間……。そして学び直しの機会を得ました。

大学院では、これまでの教科指導や実践を客観的に振り返るとともに、最新の教科指導の動向を学ぶことができました。

技術科では、4人の先生方を中心に教科指導について丁寧にご指導をいただきました。教科の内容以外のことでも相談にのっていただくこともあり、親身になってアドバイスをくださりました。また、家庭科の免許を取得したことも、とても貴重な経験となりました。技術科でも家庭科の授業でも多くの仲間にも恵まれました。仲間との時間は、もうそれ自体が貴重な学びになりました。最



阿部 暢史
(あべ まさし)

秋田県羽後町出身。新潟大学教育学部中学校教員養成課程技術科を卒業。平成14年から新潟県の公立中学校教員として勤務。平成29年、第56回関東甲信越中学校技術・家庭科研究会で授業を公開。令和3年度に上越教育大学大学院修士課程学校教育深化コース(文理深化・技術)に在籍。令和5年より柏崎市立鏡が沖中学校に勤務。

高の環境で最高の時間を過ごすことができました。

現在、社会や世界、教育を取り巻く状況は急激に変わろうとしています。それはwell-beingを求め、山積する様々な問題を技術イノベーションによってよりよく解決していこうとする世界的な潮流があるからです。教育現場においてもSTEAMな学びが注目されています。中学校技術・家庭科は、その中心となり得る教科です。統合的な問題解決学習を実践的、体験的に学ぶことができる教科指導を日指し、2年間で学んだことを余すことなくアウトプットしながら励む所存です。

上教大 なんでも掲示板



令和7年度から 教職大学院に新しいプログラム 「遠隔教育活用修学プログラム」開講

本学では、令和7年度から現職教員対象のオンラインを活用した教職大学院の新しいプログラム「遠隔教育活用修学プログラム」を開講します。当プログラムは、働く現職教員のことを第一に考え、オンラインを活用し、現職教員が居住地を離れることなく、所属校に勤務しながら大学院への進学を可能にするものです。

遠隔教育活用修学プログラム
(教職大学院)の詳細はこちら



文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に本学の取組が選定されました

本学の取組「新潟県・新潟市における大規模災害等の地域課題解決に必要な教師人材の養成・確保」が、文部科学省の令和6年度補助事業「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に選定されました。

この取組は、新潟県内で教職に就く強い意欲を持つ高校生を対象とした高大接続事業、その後の学部総合型選抜、新潟の地域課題に対応した学部教育プログラムを一体的に運営する「新潟次世代教員養成プログラム」の実施により、新潟県・新潟市の教育の更なる充実・発展と継続的・安定的な教師人材の育成・確保に貢献するものです。

(文部科学省)地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業について



新潟次世代教員養成プログラムの詳細はこちら



人文棟リニューアル完了

上越教育大学では、施設老朽化のため令和2年から人文棟改修工事を段階的に実施し、令和6年3月の1、2階部分の改修工事完了をもって8階建て人文棟全階の工事が完了しました。

改修によって、人文棟前には、外階段が印象的な広場が整備されました。また、オールジェンダー、オストメイト等対応の多機能トイレや、廊下の床材には、滑りにくく音が出にくい素材が導入される等、各所に工夫が施されています。

J-style 通信



留学と教員養成

学長 林 泰成

私は、大学・大学院で西洋の哲学・倫理学を学びました。主として英語圏の哲学を学びましたので、アメリカやイギリスに留学したいなと思っていました。しかし、先輩や後輩が留学するのを横目に見ながら、結局、自分自身はその夢をか

なえることができませんでした。だから、留学に対しては、今でも強いあこがれを持っていました。 本学は教員養成系大学ですから、国内で通用する教員免許状の取得のためのカリキュラムを組んでいます。その中には短期の「海外教育研究」等の授業はあるものの、教員を目指す学生の立場からは、1年以上に及ぶような長期の留学は、卒業・修了が遅れてしまいますので、なかなか難しいということになるように思います。でも、機会があれば、ぜひ異文化に触れてみていただきたいと思っています。

私は、国際学会への参加や大学の用務等で、海外の大学を訪問することがあります。日本とのさまざまな違いに直面し、興味深いと感じることが多いです。学会参加の折、ニューヨークのブロードウェイでミュージカル「キャッツ」を見ましたが、日本に戻ってから、東京まで劇団四季の「キャッツ」を見に行きました。言葉以外にもきっと違いがあるだろうと思ったからです。ニューヨークでは、舞台の1階から2階の観客席前まで猫に扮した俳優さんたちが登ってくるキャッツ・ウォークがありました。日本ではありませんでした。きっと安全に関する

考え方が違うのだろうと思いました。 以前、日本と韓国の教育大学の学長懇談会を本学が当番校として開催した際、私は副学長として、本学の小学校での分割方式の教育実習の説明をしました。そのとき、韓国の参加者からは「教育実習を1か月しかやっていないのか？」と驚かれました。アメリカでも14〜15週間たそうですので、世界標準から見れば、短すぎるのかもしれませんが、本学では、さまざまな形で学校現場とかかわる機会があり、また教職大学院に進学すれば、もっとディープな学校実習があります。

本学には海外からの留学生もいます。ときどき、彼らの報告会などの案内もポータルサイト等に掲示されていますので、ぜひ交流してください。海外に出たり、留学生と交わったりすることで、日本文化の特質に気付くというようなこともあります。こうした異文化体験が、きっと、学生の皆さんの教員としての能力を底上げすると私は思います。

上越教育大学同窓会



大学同窓会 評議員会報告

本年度の同窓会評議員会は、2024（令和6）年7月28日に、対面及びオンラインのハイブリッドで開催されました。大学院と学部同窓会が統合されて、2度目の実施でした。

同窓会は、会員相互の親睦と啓発を図り、教育に関する諸問題に対して意見交換の場を提供するとともに、上越教育大学の発展・充実に寄与することを目的としております。その中で評議員会は、入学生年度や所属、支部等を越えた意見交流の機会となっております。

議事に先立ち、山本浩昭会長、参与の林泰成学長の挨拶、各支部等同窓会の近況報告がなされました。東京と福井はオンラインで、宮城と埼玉は会場にてお話しいただき、活動状況や課題等を共有することができました。

続いて、評議員会の主な目的である、前年度事業報告及び決算報告、新年度の役員、事業計画及びその予算案に関する



審議がなされ、全案ともに承認されました。予算案では、学園祭への助成を前年度より増額すること、前年度に引き続き、同窓会PR活動経費を計上すること等をお認めいただきました。

そして、笠原芳隆副会長の挨拶で閉会となりました。挨拶中の「この年になると同じ時を過ごした仲間に出会いたくなるのです」に頷いている方も多くいらしたように思います。また、林学長は冒頭の挨拶で、4年後に本学は創立50周年を迎えると述べられておりました。それらから、「教育は百年の計」、その半分を迎える50周年の時に、懐かしい顔と再会し、笑顔で、明日からの教育について希望を語り・語られる同窓会として成長できるように、そして、それぞれの現場でそれぞれが元気で時間を重ねることに何らかの貢献ができる同窓会でありたいと心から思いました。

夏の一日、貴重な日曜日にご出席くださりました皆様、準備・運営等にご尽力くださいました総務課の皆様、本年度の評議員会の開催にお心をお寄せくださった皆様に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

上越教育大学同窓会事務局 佐藤 ゆかり

修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。



ご寄附のお願い - 教員養成を通して皆様の思いを将来ある子どもたちに -

上越教育大学リサイクル募金

ご寄附の詳細などはこちら▼

kishapon.com/juen/

上越教育大学 リサイクル募金

検索



上越教育大学基金

ご寄附の詳細などはこちら▼

juen.ac.jp/300kikin/

上越教育大学 基金

検索



インタビュー 大学院で輝く人

大学院3年
発達支援教育実践研究コース
幼年教育領域
たけやま ゆきこ
竹山 由希子さん



大学院進学背景

私は大学時代に法学部に所属しており、当時受講した講義の中で、少年法の講義がとても印象に残っています。そこでは、非行に至ってしまう子どもの背景に幼少期の環境が大きく影響しているということを学びました。学部では、中学校および高等学校の免許を取得しましたが、その中で幼少期の子どもに関する知識は十分に身に付けることができていると感じませんでした。今後、教師として子どものより良い成長を支えることができるような良き導き手となるためには、目の前にいる子どもの幼少期にもしっかりと注目し、理解することが大切だと考えました。そこ

で、幼少期の子どもの発達と教師に求められる指導・支援について学び、自己の専門性を高めたいと考え、進学を決意しました。

大学院での学び

大学院では、乳幼児期の発達やそこで求められる保育者の在り方等について学んでいます。その中で、大学院1年時に、保育現場における安全性の確保に向けたガイドラインの整備に関する論文、2年時に、保育現場における有効なカンファレンス実践に向けた手立ての検討に関する論文を白神先生のご指導のもと著しました。また、現在所有する中学校社会科・高等学校地理歴史科・公民科の免許に加え、幼稚園および小学

校の免許取得を目指し学んでいます。

学生生活においては、領域を超えて多くの院生や学部生との関わりを大切にしています。授業や日々の生活の中で多様な価値観に触れ、自己の引き出しを増やし、教師としての専門性向上に向けて尽力しています。

子どもと伴走する教師を目指して

今日の教育現場では、子どもの多様化が進み、個々に応じた多様な支援が求められています。これまでの学びを生かし、一人一人の子どもに親身に寄り添いながら、その子のやりたいに最後まで伴走する教師になりたいと思います。



これは、学校支援フィールドワークでお世話になっている園の子ども達が「先生もプリンセス!」とプレゼントしてくれたお花の冠です。(竹山さん)



インタビューを終えて

竹山さんは院生仲間であり、共に学びを深め合う先輩です。領域を超えて、様々な実践や研究について相談したり、意見交換をしています。特に、研究に対する姿勢や内容が丁寧で熱心なので、私の目標の先輩です。

■聞き手・文(写真右)

大学院2年
発達支援教育実践研究コース 幼年教育領域
横田 真夕



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

アンケートにご協力ください
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からご回答いただけます。アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に粗品をお送りいたします。

